

茶
道
具
月
島

澤
田
昌
久

【登場人物】

安藤伸弘	鞠千代	梅志津	鈴彩	雪乃	小豆	菊葉	徳永幸子	大橋理恵	辻本彩	ライカ	古田芳雄	大石美香	白川夕子	月島満	月島楓	月島剛士	村井英夫	白川瑠子	月島翔
(六〇)	(三三)	(二九)	(三〇)	(三二)	(二〇)	(二〇)	(三五)	(一五)	(一一)	(一一)	(三八)	(二九)	(三六)	(二二)	(四三)	(五三)	(一五)	(一五)	(十五)
工芸職人	同・芸妓風ホステス	同・芸妓風ホステス	同・芸妓風ホステス	同・芸妓風ホステス	同・舞妓風ホステス	同・舞妓風ホステス	ナイトクラブ『錦鯉』の	瑠子の同級生	瑠子の同級生	翔の同級生	翔の同級生	理科教師で、体育教師	瑠子の母	翔の兄	翔の母	の店主で『茶道具月島』	翔の同級生	翔の同級生	中学三年の少年

警	警	チ	チ	チ	『	影	土	西	松	藤	藤	若
官	官	ヤ	ヤ	ヤ	福	山	田	木	井	田	田	松
		ラ	ラ	ラ	徳		圭	太		健		正
		男	男	男	書	実	吾	一	靖	太	保	雄
E	D	C	B	A	房	(((((((
					』	四	三	四	五	八	五	三
					の	二	八	三	二	〃	〇	八
					店))))))
					主							
						バ	不	『	『	保	『	タ
						丨	動	西	豊	の	藤	ク
						に	産	木	の	息	田	シ
						い	会	呉	松	子	豆	丨
						た	社	服	井		腐	ド
						客	の	店	』	』	店	ラ
							営	』	店		』	イ
							業	店	主		店	バ
								主			主	丨

剛士「じゃ、適当にどれか指差しして、」

若松「運転のタクシを出て指さすと、後部座席の扉を手動で開け、出てくると、丁重に誘導する。」

○元の座敷（夜）

豆腐まみれで泣きわめくホステスたちを背中に見れば、幸子が意気揚々と札束を数えて

○走るタクシの中（夜）

酔った翔、今にも吐きそうである。窓から顔が透ける。女子、前方に歩道をランニングの姿

が、いる。女子、白川溜子（一五）の姿が、窓から顔が透ける。翔が、顔を引込めて隠れる。瞬間、

○月島表（夜）

昔ながらの京町屋が並ぶ通りの一画にある、二階建ての店舗兼住居建物。立派なつくりで、看板が掛かっていて、その前にタクシと看板が掛かっていて、その前にタクシと看板が掛かっていて、その前にタクシと看板が掛かっていて、

剛士「チップや、と、き。祝儀は奇数と決まると、訳分からぬことを言いなから、若

若松「あ、り、と、う、ご、ざ、い、ま、す、！」

剛士「あ、り、と、う、ご、ざ、い、ま、す、！」

○ 同 深 呼 吸 し て い る と 眼 下 に ラ ン グ で
 翔 が 二 階 の 部 屋 (夜)
 枕 が 当 た る 。 ア の 側 に 剛 士 の 投 げ た
 ぎ 声 が 寝 て か ら 剛 士 と 楓 の 喘
 ド ア の 向 こ う の 寝 室 か ら 剛 士 と 楓 の
 と 翔 が ふ ら ふ ら と 階 段 を 上 っ て くる 。
 直 行 。 か け 込 ん で い く 。 そ の 奥 の 住 居 ス
 ○ 同 楓 ・ 二 階 の 廊 下 (夜) 、 そ の ま ま 寝 室 に
 楓 を 抱 き か へ た 剛 士 、 そ の ま ま 寝 室 に
 楓 を 抱 き か へ た 剛 士 、 そ の 奥 の 住 居 ス
 店 舗 の 奥 の 暖 簾 を ぐ ぐ と ぐ ぐ と ぐ ぐ と
 入 り 口 を 入 る と 店 舗 に な っ て い て 、 高 価
 ○ 同 楓 剛 士 楓
 わ 剛 士 楓
 の ま ま 中 へ 入 っ て 行 く 。 か へ る と 、 そ
 つ 、 酒 ク サ ッ と や め て 、 あ ん た 。 う
 楓 を 抱 き し め る 。 逃 れ る よ う に 、 剛 士 が
 か ん や な い ! 翔 に お 酒 な ん か 飲 ま せ たら
 間 、 一 髪 避 け る 楓 と 家 の 中 に 猛 ダ ッ シ ュ 。
 と い き な り ゲ ロ を ぶ ち ま け る 翔 。

○ 同・風呂（夜）

その奥に和室が一室あるだけ狭い住居。

玄關を上がると簡単な所付きリビング。

中には誰もいない。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

瑠子、入ってき。電気をつける。

翔

「何がやっ、てんにやろ、俺」

「何をしや、り」と閉めて畳の上で寝

かける。角を曲がって見えない。大の字で追

窓から身を乗り出して、瑠子の視線で追

月島家の前を通り過ぎて、瑠子の姿。

○ 『北野女子高校・正門前（夜）』とある正門

閉ざされた門にしがみつき、向こうに建

つ校舎を、憧れの眼差しで見つめる。に建

○ 住宅街（夜）

スピンロードをゆるめる。いって、瑠子が、その

○ 白川家・表（夜）

さっきとは対照的に表情の曇った瑠子が、

ボロボロの平屋の自宅に着く。瑠子が、

ガムテープで補修された窓ガラス。瑠子が、

その枠に取り付けられた錆びいたポ

ストを開け、中の封筒を取ると、家の中

に入っ、ていく。中の封筒を取ると、家の中

せなと思うけど、やっぱりあの人はかな
わんと思うけど。まあ頑丈な人やさかい、
幸子右に同じく。まあ頑丈な人やさかい、
大丈夫や思うけど。まあ頑丈な人やさかい、

〇 西大路中学校・正門前
二日酔い同級生の村井英夫（一五）が

英夫 駆けておっす翔、同級生の村井英夫（一五）が
て ー ねん ー 翔！ 何をそんなにげんなりし

英翔 ー ー 翔！ 何をそんなにげんなりし
夫 ー ー 翔！ 何をそんなにげんなりし

元夫 ー ー 翔！ 何をそんなにげんなりし
気 ー ー 翔！ 何をそんなにげんなりし

〇 同 三階の廊下、三年二組の札があつ
並ぶ教室の中、三年二組の札があつ

〇 同 三年二組の教室
白を着た、大石美香（二九）の授業が

白のボタンのがちは切れんばかりの、バ
白のボタンのがちは切れんばかりの、バ

黒板には北斗七星の正座が描かれていて、
黒板には北斗七星の正座が描かれていて、

美香 ー 星を見るところに届くところと、それか
射 ー 星を見るところに届くところと、それか

くば ー 星を見るところに届くところと、それか
ら ー 星を見るところに届くところと、それか

を窓際眺めて翔は、校舎で体育の授業中の瑠子
を窓際眺めて翔は、校舎で体育の授業中の瑠子

○同・正門

髪型や服装がチャラチャラした辻本彩

(一五)と大橋理恵(一五)。

瑠子と一緒に来る。極行かへん？

「今から行く」

「行くも行く」

「乗気なく」

「うん」

○新 京極商店街・アイドルショップの前

瑠子、彩、理恵、三人が出てる。寄ってきた、

と、チャラ男何してんの？今、暇？」

「ナァ？」

「キヤキヤ」

「男Bクレ」

「盛り上がる理恵・彩とは対照的に、冷め

た瑠子が、う行こ」

「男C」

「何や冷たいな。クレ」

「あげるや」

「真似して」

「クレ」

「おごったげるや」

「似てる！」

「彩の手を取って、」

「はしゃぐ理恵と」

「強引にその場を立ち去る。」

「と、」

○月 島家・表(夕)

学 校 帰 りの 翔、 自 宅 前 の 喧 騒 に 気 付 いて

苦 表 情 の 翔、 自 宅 前 の 喧 騒 に 気 付 いて

パ ト カ ー で 乗 り 付 け た、 警 官 D・E が い

て、

と、隣の三組の教室に、瑠子が入っている。

○ 同・三年三組の教室

美 香「成績優秀な部活も頑張っている。

美 子「あ言おうとすごいぞ！」「これだけ成績

美 香「高北野女子高も狙えるよ。高校行っ

瑠子「もったら北野女子高も狙えるよ。高校行っ

瑠子「バスケットはやりたいんやろすけど：：私、

○ 元の廊下を覗き見していた翔、

○ 元の三組の教室

美 子「もったら北野女子高も狙えるよ。高校行っ

美 香「高北野女子高も狙えるよ。高校行っ

美 子「あ言おうとすごいぞ！」「これだけ成績

美 香「高北野女子高も狙えるよ。高校行っ

美 子「もったら北野女子高も狙えるよ。高校行っ

美 香「高北野女子高も狙えるよ。高校行っ

○ 元の廊下を飛んで駆けて行く。

○ 翔 剛 楓 ○ 剛 剛 楓 楓 ○ 楓 楓 翔 楓
 タ や ー が 階 ° の て 声 の 元 士 士 士 楓 ○ 同
 い 泥 子 ー ー が 階 ° の て 声 の 元 士 士 士 楓 ○ 同
 る 酔 の ー も ー が 階 ° の て 声 の 元 士 士 士 楓 ○ 同
 ° 客 働 く ス ナ ツ ク ・ 店 内 (夜) を 唄 っ て
 舌 打 ち し て 苛 つ い て い る 。
 け 降 り 舌 打 ち し て 苛 つ い て い る 。
 翔 け 降 り 舌 打 ち し て 苛 つ い て い る 。
 涙 お ぐ む 楓 ° 何 も ° 大 歓 迎 ー
 ー え え や ろ も 何 も ° 大 歓 迎 ー
 ー う さ い ° ま さ 勉 強 し て 入 っ て 来 て ー
 楓 が ー あ た の 服 を 隠 す 翔 °
 赤 本 を 慌 て 隠 す 翔 °
 赤 本 を 慌 て 隠 す 翔 °

その喧嘩の中、瑠子の母、白川夕子（三六）が、ボックス席で男性客の接客をし

○ 白川家・室内（夜）

食卓で受験勉強をしていて、瑠子の手許の赤本を

「はあ」と一息ついて、学校の文字。と、紙には「北野女子高等学

校」の文字。夕子と、玄関のドアが開いて、瑠子の母、夕

子が帰宅する。足をもつれさせながら、酔っぱらった遅くまで頑張っている

夕子 「ただいま。遅くまで頑張っているんや」

瑠子 「夕子、奥の部屋に敷かれた布団に、そのま

ま寝転がる。夕子「うん。ちよつと疲れているだけ」

夕子 「そのまゝ寝る夕子。口

ふと空を見上げると、夜空には満天の星。

出でてきて、ドアを背もたれに座り込む。ふと空を見上げると、

「北野女子高に行けますように」と、口許が動く。

○ 京都府下の山村（数日後）

○ 芸職人安藤の工房・表

剛士、バンから段ボール箱を

キ
ヤ
ス
タ
ー
明
日
、
日
本
各
地
で
見
ら
れ
る
と
い
う
で
い
し
う
獅
子
座
流
星
群
。
気
に
な
る
お
天
気
は
ど
う
で
い
か
ー

○ 船
岡
山
・
麓
（
次
の
日
・
夜
）

登
山
口
に
、
翔
が
立
っ
て
い
る
。
小
高
い
丘
の
そ
こ
に
英
夫
が
自
転
車
で
来
る
。
荷
物
で
い
っ
ぱ
い
の
ら
双
眼
鏡
を
下
げ
、
背
に
は
荷
物
で
い
っ
張
り
切
り
ぶ
り
に
あ
き
れ
る
翔
。
英
夫
の
張
り
切
り
ぶ
り
に
あ
き
れ
る
翔
。

○ 同
丘
を
登
っ
て
く
る
翔
と
英
夫
。

翔
英
夫
ー
（
ア
ホ
カ
ー
）
重
い
ー

他
に
も
流
星
群
を
見
よ
う
と
た
く
さ
ん
の
人
が
集
ま
っ
て
い
る
。
場
所
を
決
め
、
シ
ー
ト
を
翔
と
英
夫
、
陣
取
る
場
所
を
決
め
、
シ
ー
ト
を
敷
く
。
の
上
に
寝
転
が
り
空
を
見
上
げ
る
。

○ 夜
空
は
雲
に
覆
わ
れ
、
星
一
つ
見
え
な
い
。

○ 元
の
頂
上
（
時
間
経
過
・
夜
）

翔
英
夫
ー
ー
翔
と
英
夫
。

翔
英
夫
ー
ー
翔
と
英
夫
。

翔
英
夫
ー
ー
翔
と
英
夫
。

が
す
る
ー
目
的
と
や
っ
て
る
こ
と
が
、
無
茶
苦
茶
な
気

瑠 翔
子
「 「 翔 瑠 自 買 近 て 走 の
月 起 、 子 動 う く い っ 頂
島 こ そ の 販 翔 の 自 溜 登 上
く し の 機 販 動 子 っ 明 へ
ん て 側 の 機 販 売 機 で 、 カ フ ェ オ レ を 二 つ
： も に 来 て 、 さ あ 「 て よ か っ た わ 。
： う た か な っ た わ 。

○
元
の 頂 上 へ 明 け 方)
翔 が 、 う と う と 眠 っ

た の を 確 認 す る と 、 来 た 道 を ま た 戻 る 。
翔 英 夫 先 生 が 交 差 点 を 折 れ て 見 え な く な っ

翔 英 夫 近
「 「 翔 と 英 夫 の 差 点 へ 明 け 方)
「 「 翔 と 英 夫 の 差 点 へ 明 け 方)
「 「 翔 と 英 夫 の 差 点 へ 明 け 方)

翔 英 翔 英 〇
か 夫 か っ 夫 元
「 っ 「 く 「 た 「 下 の
： た ど や そ ほ 流 山 麓
： く な し や う が 星 し へ 明
「 せ い 、 け ど 、 か ん る 方)
「 ね や 見 た か 何 か 残 念 や っ た な あ 。 せ っ
ん 。 最 初 は あ ん ま り 興 味 な
。 翔 子 の 眼 差 し に 打 た れ て 、

翔 見 曇 見
「 翔 見 曇 見
： 、 え っ た け て
： そ の い 夜 空 ハ ツ と なる 。
「 純 粋 な 何 か 懇 願 し 上 げ て いる 瑠 子 。
純 粋 な 何 か 懇 願 し 上 げ て いる 瑠 子 。
純 粋 な 何 か 懇 願 し 上 げ て いる 瑠 子 。

○ その近く（朝）

の猛スピードで来

て止まる。

○ 切胸勢翔のいいで自転車が倒れる。はああと息を

○ 月島家の翔の部屋（一ヶ月後）

にセットして

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

○ 『西大路中学・前の横断歩道

している。

○ 同 ・ 屋外バスケットコートを決める溜子。
ジヤンプシュートを撮りするライカ。
その瞬間を隠し撮りするライカ。

○ 同 ・ 教室
体育の授業前。
着替える女子たちの中の溜子を、廊下から隠し撮りするライカ。

○ 通
降り出した雨の中、傘を持たずに急いで帰宅する溜子。
雨で服が透けている。
物陰で待ち構えているライカ。
シャッターを押す。

○ 月 島家・剛と楓の寝室（数日後）
翔、忍び足で入って来る。
引き出しを開け、中の財布から一万円を抜く。

○ 同 ・ 外（夜）
一万円と引き換えに、翔に封筒を手渡す
ライカ。

○ 同 ・ 翔の部屋（夜）
駆け込んできて翔。
急いで封筒を開ける。

○ 村 井家・英夫の部屋（夜）
井家・英夫の部屋（夜）
秀夫も、同じ種類の封筒を持ってきている。
嬉しそうに封筒から写真を取り出す英夫。

英夫 「中から瑠子の写真が出てくる。」

○ 月島家・翔の部屋（夜）

翔 「翔の写真を訝しげに見ている翔。翔の間違った許には、美香の写真がある。」

○ 同・表（夜）

ライカ 「ここに気が付いて、渡す写真を間違えた。」

○ 通り（二ヶ月後・夕）

焼き芋屋が、白い息を吐きながら、のり

○ 安藤の工房・表（夜）

ひっそりと静か。

○ 同・作業場（夜）

きれいに整頓されて、室内でひっそり

安藤

「と、グラスを置く安藤。」「これが、贋作は作れへ

安藤 「立ち上がり、あらかじめ用意して

いた脚立に登ると、深く呼吸する。」「首を通し、管から垂れ、足を蹴る。」

○ 商店街（数日後・夕）

学校の帰り、英語の勉強をしながら、

上機嫌で歩いている。
「 I wish I were a bird. 」

○ 月島家・表（夕）

と、学校の喧騒に驚愕。
パトカーと警察車両が停まっていて、野

次馬がたかっ、松井、西木もいる。
その中には藤田、い

幸子が駆けつけ、い
「 幸子が駆けつけ、い

藤田が「 幸子が駆けつけ、い
「 幸子が駆けつけ、い

西木が「 幸子が駆けつけ、い
「 幸子が駆けつけ、い

松井が「 幸子が駆けつけ、い
「 幸子が駆けつけ、い

警官が「 幸子が駆けつけ、い
「 幸子が駆けつけ、い

警官が「 幸子が駆けつけ、い
「 幸子が駆けつけ、い

剛士が「 幸子が駆けつけ、い
「 幸子が駆けつけ、い

予想到のしな、か、つ、目、前、の、事、件、に、寄、る、ニ
「 予想到のしな、か、つ、目、前、の、事、件、に、寄、る、ニ

翔

「オトン！どかないしたん！」
剛士翔と目が合う。唇が「すまん」と

○同

・中の居間（夜）
「オトン！どかないしたん！」

翔

「オトン！どかないしたん！」

楓

「オトン！どかないしたん！」

翔

「オトン！どかないしたん！」

楓

「オトン！どかないしたん！」

○走

「オトン！どかないしたん！」

○月

「オトン！どかないしたん！」

○同

「オトン！どかないしたん！」

○同

「オトン！どかないしたん！」

目を腫らした楓が出迎えて、一つもない。

	満	翔	満	翔	満	翔	満	翔	満	翔	満	翔	○	満	翔	楓	満	楓	満	楓
あ	茶	じ	と		も	高			を	て			元			ど				
「	く	貧	ら	「	知	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「	「
	乏	れ	お	え	：	い	た	金	そ	ず	偽	贋	作	「	と	と	飲	満	向	の
	や	へ	前	！	：	つ	「	ぼ	う	っ	と	作	「	「	と	と	「	「	「	「
	っ	ん	が	た	お	か		っ	や	と	作	：	「	「	と	と	「	「	「	「
	た	と	ま	ん	嘘	前	ら	た	。	作	っ	：	高	「	う	う	「	「	「	「
	で	ん	思	だ	？	や	が	く	贋	っ	て	「	値	著	っ	捕	た	て	（	夜
	も	や	う	産	「	ろ	産	っ	作	て	た		で	名	て	ま	缶	座	っ	「
	俺	。	け	ま	。	ま	？	て	を	た	ん	や	売	り	作	お	「	「	「	「
	が	俺	ど	れ	お	れ	「	た	作	ん	や	「	飛	家	兄	な	「	「	「	「
	小	の	、	て	兄	る		ん	っ	？	「	ば	さ	ん	あ	「	を	開	、	「
	三	お	う	へ	ち	前		や	て	「		し	ん	「	「	を	開	け	、	「
	の	年	ち	ん	や	か		。	売			て	の	「	「	を	開	け	、	「
	時	玉	の	時	ん	ら		っ	っ			た	の	「	「	を	開	け	、	「
	や	で	家	、	「			い	て			た	の	「	「	を	開	け	、	「
	っ	生	は	今	そ			に	、			ん	品	「	「	を	開	け	、	「
	た	活	無	で	れ			バ	客			や	の	「	「	を	開	け	、	「
	か	し	茶	は	ず			レ	か			「	贋	「	「	を	開	け	、	「
	な	て	苦	信	っ			て	ら			作	作			「	「	「	「	「

翔		満	翔		満	○		満	○		○		満											
な	さ	育	前	な	げ	そ	つ	時	を	つ	元	た	が	の	同		同		同		本	と	店	
「	」	せ	て	「	ん	」	で	こ	た	代	作	「	満	神	の	「	満	・	物	満	・	本	と	店
：	：	た	よ	家	て	知	俺	に	。	で	り	。	オ	。	妙	翔	。	利	益	と	交	と	物	見
：	：	く	っ	が	「	ら	ら	来	店	な	ま	売	ト	。	な	面	。	益	率	換	と	そ	比	あ
「	」	な	い	た	福	か	生	客	け	客	っ	へ	の	持	屋	。	百	。	率	換	と	つ	べ	る
		い	っ	子	。	っ	活	に	や	の	た	ん	悪	ち	（	パ	。	百	。	換	と	く	る	本
		っ	ち	供	。	た	は	も	あ	金	ん	工	知	で	）	ー	。	。	。	。	。	。	。	。
		ち	ゆ	に	前	。	コ	売	ら	の	や	芸	恵	、	現	セ	。	。	。	。	。	。	。	。
		う	想	度	こ	。	ソ	ロ	へ	使	。	職	で	、	翔	ン	。	。	。	。	。	。	。	。
		想	い	と	と	。	ん	ッ	さ	ん	い	丁	人	、	に	ト	。	。	。	。	。	。	。	。
		が	あ	金	は	。	な	と	ば	。	方	度	つ	店	話	や	。	。	。	。	。	。	。	。
		あ	っ	の	、	。	ん	変	い	茶	は	世	か	は	を	「	。	。	。	。	。	。	。	。
		っ	た	苦	そ	。	で	わ	と	会	、	の	ま	は	聞	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		た	ん	勞	ら	。	儲	っ	た	を	半	中	え	ん	か	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		ん	や	を	大	時	け	た	と	開	。	バ	て	ど	せ	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		や	か	か	事	に	と	わ	。	い	や	ブ	、	ん	て	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		ろ	け	け	に	お	っ	「	お	て	な	ル	贖	儲	い	。	。	。	。	。	。	。	。	。
		ろ	け	け	に	お	た	か	、	か	の	の	作	か	た	。	。	。	。	。	。	。	。	。

翔 楓 翔 楓 翔 楓 満 楓 満 楓 満 楓 翔 楓
 ど あ か え 万 ミ ん そ み は な め 今 る も た 一 も
 「 も ん 「 い 「 | 翔 方 物 ツ 「 「 な う に 家 「 か 「 に 度 ま り 「 め 「 度 「 「 ん 「 「 「
 よ つ た 違 な そ で 、 「 は ル : オ 結 自 で 族 や や ま 新 は で は : の だ 止 ダ そ ° だ ん 二
 う て ら う 「 し か 空 陰 と カ 私 シ ン を に け た め る れ 一 店 金 聞 ° ん 悪 い た て な や の て ? 人
 分 こ は の た き に と ケ 、 は 生 言 れ め る れ 一 回 舗 返 い お ° な 予 言 と こ そ 人 : 何 も
 か と 二 、 ら 混 な 陽 ケ 、 あ 悪 ん い ば を 行 へ 回 舗 返 い お ° な 予 言 と こ そ 人 : 何 も
 ら 「 人 そ カ ぜ た ー 。 ん う で 聞 、 思 為 ん お い つ ま ° を つ や と き の 思 つ つ 謝
 ん で ん ケ な が グ で 満 た な し か 誰 つ は わ い つ ま ° を つ や と き の 思 つ つ 謝
 「 お な ル が ラ て き つ ら い ま せ も て 犯 な し く で で き れ 贖 で る と る の 思 つ つ 謝
 父 こ の 俺 、 の 中 の 氷 を ス ト 考 陰 と 陽 。 。
 さ と 俺 、 の 中 の 氷 を ス ト 考 陰 と 陽 。 。
 ん 言 、 の 中 の 氷 を ス ト 考 陰 と 陽 。 。
 と っ 陰 ? の 中 の 氷 を ス ト 考 陰 と 陽 。 。
 お て の 中 の 氷 を ス ト 考 陰 と 陽 。 。
 母 る の 中 の 氷 を ス ト 考 陰 と 陽 。 。
 さ ん や 下 げ チ ン 陰 と 陽 。 。
 ん や 下 げ チ ン 陰 と 陽 。 。
 の な い ン 陰 と 陽 。 。
 子 い ン 陰 と 陽 。 。

○ 月島家・翔の腕を組み、交互に眺める。

○ 『西大路中学校』・三年二組の教室（数

古田も言うように、受験しズンヤ。こ
れからラストスパーに、英夫。気抜くなよ。

空手を休めて翔の席に目をやる。

○ 同・廊下の教室から瑠子が出てくる。

英夫と、来る。英夫。手伝って欲しいことがあんな

瑠子「ちよっ」と手伝って欲しいことがあんなね

英夫「翔の何？ やけど」

○ 『藤田豆腐店』・表

藤田が振りアカしを磨いている。太
田「あー、そうに、大欠伸。豆腐は売れな
健太「そんなつぶやきが、健太の耳に聞こえて、

○ 『松井の松井』・店内
ボーツと見ている。

○白川家・室内（夜）
鬼の形相で、勉強に打ち込んでいる瑠子。
る。°

○月島家・翔の部屋（夜）
山積み。参考書の前で、翔も必死で勉強
している。

○元の白川家の室内（夜）
眠そうなく瑠子、まだ勉強している。
と、ひどく酔っ払った夕子が、ガタガ

瑠子
奥の和室に夕子を座らせる瑠子。
水を持って来て夕子に飲ませる。

夕子
落ち着きを取り戻して、夕子。
落着きを取り戻して、夕子。

夕子
高校に行こうと思っただけ、勉強もよ
う。バスケも日本が一番強いし、

夕子
張つてそこ目指し。お母さんは大賛成やで
張つてそこ目指し。お母さんは大賛成やで

瑠子
ふしと頷いて、洗面所に向かう夕子。
ふしと頷いて、洗面所に向かう夕子。

○パン工場長の男に連れられて来る楓。
工場長の男に連れられて来る楓。

○ 月 島 家 ・ 寝 室 (夜)
 と 楓 が ベ ッ ド の 上 に 放 り 出 し て いく を 次 々

占 子 かの 才 能 が あ る の だ け だ 。 そ う じ ゃ な い ？
 占 師 本 当 は ね 、 あ な に は 人 を 引 き づ け

○ 元 河 原 町 三 条 辺 り (夜)
 占 師 熱 心 に 占 い 師 の 話 を 聞 い て いる 楓 。

翔 合 格 さ せ て くだ さ い ！
 翔 が 行 く 翔 。 英 夫 も よ ろ し く

○ 北 野 天 満 宮 ・ 社 殿 (夜)
 翔 手 合 わ せ る 翔 。 溜 子 と 俺 の 入 試 、

翔 掛 と 行 っ と か な ！
 翔 と 書 く 。 計 算 を し て 、 答 案 用 紙 に 6 0

○ 月 島 家 ・ 翔 の 部 屋 (夕)
 楓 し て る 女 と 思 っ た や ろ ！

占 い 師 あ ん た 今 、 うち の こ と 胡 散 臭 い 商 売

○ 同・表（夜）
イケイケのドレスに着替えた楓が、勢いよく出て来る。乗り込む。

運 転 手「どちらまで」
楓 転 手「えーと」

運 転 手「どちらまで」
楓 転 手「えーと」

運 転 手「どちらまで」
楓 転 手「えーと」

運 転 手「どちらまで」
楓 転 手「えーと」

○ デイスコ・ダンスフロア（夜）
大音響の踊り狂っている。楓の反射を受け

○ 月島家・店舗部分（夜）
一人いる。翔の通りを見ている。

○ 同・表の道（夜）
お守り片手に瑠子を追う。翔の通り過ぎる。

○ 同・表の道（夜）
お守り片手に瑠子を追う。翔の通り過ぎる。

○ 同・表の道（夜）
お守り片手に瑠子を追う。翔の通り過ぎる。

○ 同・表の道（夜）
お守り片手に瑠子を追う。翔の通り過ぎる。

○ 同・表の道（夜）
お守り片手に瑠子を追う。翔の通り過ぎる。

夕子「窓ガラス越しに泣きながら走っている

○移動するタクシの中（夜）

夕子「後部座席に並ぶ夕子と楓。

「楓、ど、何か詳しいらいとでもあつたんでしよう

「ね、は、い、茶、い、ない、で、下、さ、い、お、仕事、大変、です

夕子「こ、う、見、え、て、子、ど、も、の、為、に、必、死、で、：

「楓、夕子、白川、夕子、と、申、し、ま、す

○「北野女子高校」・正門（数日後）校内に

「入、っ、て、行、く、北、野、女、子、高、校、受、験、会、場、と、あ、る、。

○「同・試験会場の教室

「検、査、官、着、席、し、始、め、い、る、溜、子、。

「溜、子、も、真、剣、に、解、き、始、め、る、生、徒、達、。

○「修学院高校」・校門の看板。

○ 同・試験会場の教室
英夫が真剣に試験問題を解いている。

○ 月島家・翔の部屋
瑠子と英夫の試験を気にして、時計を見

翔 「が、いた翔。切り替え、勉強を開始。
I, My, Me, Mine. She, Her, Her, Hers」

○ 村井家のマンション・集合ポスト（一週間

来る英夫。ポストを開けると、修学院高校からの封筒。

英夫 「その分厚い封筒を手に眺めて、

○ 同・表

英夫 「走って出て来る英夫。
やで！ 受かった！ 受かったで！ N A S A

○ 公園

バスケットボールの下の座っている瑠子。ボールの回転をかけて投げ、ボールがまた瑠子の何かに当たると、英夫が公園の

英夫 「N A S A やで」
瑠子 「S A や！」
互い気が付く。

瑠子 「落ちちゃった、私」
英夫 「落ちちゃった、私」

楓
よ
「不吉なその言葉に、楓を睨む翔。合わへん

○ 鴨川高校 校門
「鴨川高校 校門
ある。

やっ来て受験生たちの中、べらべらと
おしゃべりしながら来る彩と恵。溜子の

翔も校内に入っ
ていくと、前方に

姿を見つけた。い
くつか、声を

○ 同 試験会場の教室、
翔が問題を解いてい

る。汗をかきな
がら、

○ 月島家 表（一週
間後）
鳴いている。

○ 同 翔の部屋
「嫌や。絶対行くん
嫌や」

英夫 俺がついて
たから、早見に

ぞ
「布団にくるま
っ英夫。いる翔を、無理矢理引

○ 鴨川高校 校内
が貼り出されてい
る。

○ 合格者の受験番
号が貼り出されて
いる。

○ 同 正門
「壁にもたれか
かり、待っている
翔。

壁にもたれか
かり、待っている
翔。

翔 楓 翔 楓 満 楓 ○ 翔 瑠 彩 理 瑠
 か 今 女 高 の く お お 女 約 よ ん 月 鴨 子 で て 恵 子
 英 い 翔 度 の 校 子 時 小 金 の 束 どり か 翔 翔 島 「 と 川 私 理 か 合 子
 夫 ら へ そ 扱 に 何 何 が は 遣 が 子 し 凍 こ と ア ん た さ 合 英 ・ 胸 い 校 北 恵 も 格 者 残
 、 ん 英 意 の い 行 の の 車 、 あ あ か お ° ヲ な ホ ま わ か 祝 、 イ 痛 て 進 野 ち が 念
 楓 こ 夫 表 を 、 ち 為 て や ぶ ん げ っ 金 の く 元 人 ° 奇 た が し 楓 グ 去 る ん 高 に は 行 か へ ん の ° こ の
 の と に を つ う ゆ に ° あ ん か は か ら 出 さ と 翔 が お や 高 校 に 行 け る と は 思 わ
 料 言 っ お か れ に の 験 ん ー ん 道 ° そ 母 た ー あ い ん や ° な 世 の 中 に は お 前
 理 う お 前 れ に の 験 ん ー ん 道 ° そ 母 た ー あ い ん や ° な 世 の 中 に は お 前
 に た 前 れ に の 験 ん ー ん 道 ° そ 母 た ー あ い ん や ° な 世 の 中 に は お 前
 が や 、 て 連 を し た 、 よ 側 そ 母 た ー あ い ん や ° な 世 の 中 に は お 前
 っ ろ コ た れ 教 た 、 う を れ さ ら ト ん 翔 ° な 世 の 中 に は お 前
 っ ー ラ じ て え ん 好 う 歩 か ん あ す た ° こ れ だ け は
 い ! た 来 て や き に 歩 か ん あ す た ° こ れ だ け は
 て オ す さ げ ° 子 と 一 緒 の 女 歩 け は
 無 視 する ° 何 や 。

瑠 翔 瑠 翔 瑠 瑠 翔 瑠 翔 瑠 翔 瑠 翔 瑠 翔 瑠 翔 瑠 翔 瑠 翔 瑠 翔
 た子とん 子けかたし 子い 子 子 にば子女し 何子と たけ子
 は「な°「「のあした「「て「「「「「瑠 やい「子て「類 いが「か「らへ「
 アいん絶そ：店ら、ん俺「俺「将何方子な借結高くこをき分軽、お行んあ
 ホきか対れ：をへ高や、打学の唾来よ法、「金抱そ授る、り立るししのたやな
 やな気に功、て°行も学れ返さとと「が行 抱えれ業機調出つんくいせの°°
 なりすさ金直それともと卒業「たに：婚 ねんする°
 あ結んせ稼げろとたにやに、店を継ぐこたとに
 °婚なるえそえ器を持つて「壊れなかつ
 よて「る°えそえ器を持つて「壊れなかつ
 う：「る°えそえ器を持つて「壊れなかつ
 そ：「る°えそえ器を持つて「壊れなかつ
 の°そえ器を持つて「壊れなかつ
 頭ほやかから学費のこ
 でんまに、あこ
 高に、あこ
 校に、あこ
 受、あこ
 かあこ
 っんこ

瑠

子 ない 失
「も う ー」
その (瑠
制 服 に)
し かし、
似 合 う て

こ そ て 幸 ア と そ 新 犬 を 月 笑
う の い 子 イ 、 こ し の か 島 う も
で 小 る の ン 良 に い 散 け た か 家 三
翔 便 。 連 ダ い ラ 店 歩 を 幸 子 少
た か ら ー 被 イ 主 の 装 い が し
ち が 小 さ な 虹 が 電 柱 に 小 便 を し
が 楽 し げ に 話 し て いる 。
の 向